

授業科目名等	幼児と言葉 単位数:1単位 担当教員名:東村 知子	
授業の概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。近年増えている外国にルーツのある子どもの言葉についても取り上げる。	
授業の到達目標	1. 人間にとっての言葉の意義と機能、および乳幼児の言葉の発達過程を理解している。 2. 言葉の楽しさや美しさなど、言葉に対する幼児の感覚を豊かにする実践について基礎的な知識を身に付けている。 3. 児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)についての基礎的な知識を持ち、幼児にとっての児童文化財の意義を理解している。	
授業計画	回	内容
	1	人間にとって「言葉」とは何か:言葉の意義と機能
	2	子どもの言葉の発達過程(1):話し言葉
	3	子どもの言葉の発達過程(2):書き言葉
	4	外国にルーツのある子どもの言葉・幼小接続
	5	子どもの言葉を豊かにする保育とは
	6	言葉に対する感覚を豊かにする実践
	7	言葉を育てる児童文化財の活かし方
	8	前半:まとめ、後半:試験(レポート)
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
15		
テキスト・参考書	テキスト:文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』 参考書:岡本夏木(1982)『子どもことば』岩波書店、咲間まり子編(2014)『多文化保育・教育論』みらい、厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、ほか適宜紹介する。	
自学自習についての情報	教科書および配付資料の指定範囲を読み、ワークシートにまとめて予習すること。	
授業の形式	講義・演習	
アクティブラーニングに関する情報	毎回グループ・ディスカッション等のグループワークを行う。	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	リフレクションペーパーのコメント(30%)、課題・演習内容(30%)、最終レポート(40%)	
その他	本授業は、1単位の授業である。	

授業科目名等	幼児と表現 単位数:1単位 担当教員名:平井 恭子	
授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「表現」の指導に関する、幼児の表現する姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するために保育者として必要な知識・技能、表現力を身につける。	
授業の到達目標	(1)幼児期の表現の特徴や発達過程について理解している。 1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2)表現の生成する過程について理解している。 3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 (2)音楽表現や身体表現など、様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるために保育者として必要な感性を豊かにすることができる。 1)様々な表現を感じる、みる、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2)身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4)他者と協働して表現することを通して、他者の表現を取り入れたり、共感したりしてより豊かな表現を創造することができる。 5)様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	
授業計画	回	内容
	1	「幼稚園教育要領」における領域「表現」のねらい及び内容の理解
	2	乳児期の子どもの発達の特徴と音楽表現
	3	幼児期の子どもの発達の特徴と音楽表現
	4	身体の動きとリズム感の育ちを促す表現活動
	5	豊かな音楽表現を育む保育環境と教師の援助①わらべうたを中心に
	6	豊かな音楽表現を育む保育環境と教師の援助②身の回りの音から楽器遊びへ
	7	幼小接続と領域「表現」-音楽的内容における遊びの連続性-
	8	前半:まとめ、後半:試験(レポート)
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
15		
テキスト・参考書	テキスト:文部科学省(2017)『幼稚園教育要領』、文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』、DVD『音楽的な遊びに見る乳幼児の発達』(新宿スタジオ、全4巻) 参考書:厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	
自学自習についての情報	授業で配布した資料、紹介したテキストを使用し、予習復習、指導案作成などを行うこと。	
授業の形式	講義及び演習	
アクティブラーニングに関する情報	グループディスカッション、グループワークなどを積極的に取り入れながら行う。	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	表現課題の発表(40%)、レポート課題(30%)、最終試験(30%)	
その他	本授業は、1単位の授業である。	